

公益社団法人日本マレーシア協会 2023年度の事業報告書



写真上:「タカサゴの森」植樹行事を実施(2023年11月)
写真下:「ユアサ商事の森」植樹行事を実施(2023年12月)

2024年3月

国内における活動

●公益社団法人日本マレーシア協会 「創立65周年感謝の夕べ」

2023年5月8日(月)午後6時から8時、帝国ホテルにおいて「創立65周年感謝の夕べ」を開催しました。当日は、本協会役員・会員、支援者及び関係者の方々70名が参加しました。

来賓として、ダト・シャフリル駐日マレーシア大使、永野毅日本マレーシア経済協議会会長、有馬裕外務省南部アジア部長が出席しました。



●当協会事務局来訪者と懇談

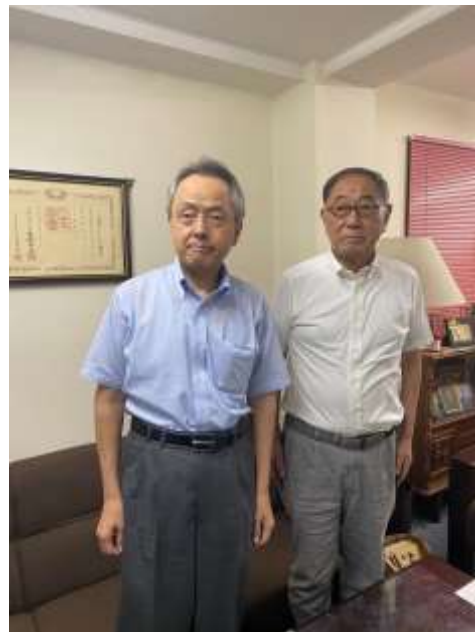
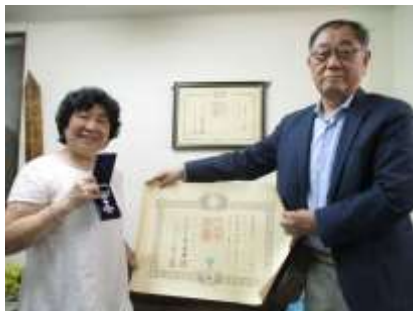
5月30日(火) ダト・ムサ・アリ マレーシア科学大学レジストラー・行政改革生産性センター長
当協会翻訳出版協力本『組織改革』著者

7月19日(水) チャー・チン・イー 令和3年度春の外国人叙勲「瑞宝単光章」授章者
元在マレーシア日本国大使館職員 JMA日本語学校第一期生

9月22日(金) 山下義人 在コタキナバル領事事務所長

9月25日(月) リン・ラジフ DSTスタジオ ビデオエディター 外務省ソーシャルメディア発信者招聘者

9月28日(木) アブドゥル・シュクル マレーシア・パハン・スルタン・アブドゥラ大学経営管理本部長



●機関誌・資料発行配布、マレーシアの関連書籍の 翻訳出版協力

1. 会報「マレーシア」の発行・配布

Vol.51,52,53を発行・配布しました。

2. マレーシア関連の書籍の出版

『ルックイースト政策40年の軌跡 1982-2022』を刊行、会員、関係者並びに全国都道府県図書館へ寄贈しました。



●マレーシア政府公務員研修へ協力

ルックイースト政策のもと、マレーシア政府人事院より国立マレーシア科学大学行政改革・生産性センターが委託を受けて、行政改革や組織管理等における日本の経験を学ぶ研修プログラムが、2023年10月16日(月)～18日(水)、マレーシア連邦政府、州政府の中間管理職33名が参加し、都内で開催されました。本協会では同研修の後援団体として、総務省訪問、東京都との会合、衆議院議員会館国際会議場における修了式開催等への協力を行いました。



総務省にて研修プログラムを実施(左)、東京都との会合(右)



修了証を授与する古屋会長(左)、修了式後に全員で記念撮影(右)

●新春の集いを開催

会員及びご支援頂いている皆様方へご報告と感謝を申し上げ、相互交流を行うための「新春の集い」を2024年2月20日(火)夕刻、国際文化会館セミナーホールで開催し、約50名の方々にご参加頂きました。

はじめに古屋会長が挨拶を述べ、続いて、来賓として外務省及び日本マレーシア経済協議会の方々からのご挨拶と、当協会の最近の活動進捗状況についてご報告を行いました。その後、有村副会長の乾杯発声を経て、懇親会へと移り、参加者同士による活発な交流が行われました。



●マレーシアとの交流プログラムへの協力

6月13日(火) 東京都市大学附属中学校で海外研修プログラム事前研修を実施
9月17日(日) 青年海外協力隊マレーシアOB会総会で活動紹介を実施

マレーシアにおける活動

本協会では、1995年より、企業、団体、個人からのご協力を得て、ボルネオ島サラワク州において熱帯雨林再生のための植林活動を行っています。フタバガキ在来種の植林を主とした低地熱帯雨林の植生回復と、2017年からはマングローブ植林による湿地林の保全も行っています。

2018年からは、マレーシア半島部クダ州においてマングローブ林再生活動を開始し、ボルネオ島と半島部の両地域で、熱帯雨林再生活動を展開しています。

マレーシアでは、新型コロナウイルスによる活動制限はなくなりましたが、マレーシア政府の標準行動規範に従い、健康と安全を第一とし、活動を続けています。

●ボルネオ島サラワク州における活動

「三菱商事(株) 熱帯雨林再生プロジェクト」

アペン国立公園とサバル国立公園において、これまでの二次林区におけるライン式植林と劣化の激しい草地での密植・混植式にて、昨年度までに、フタバガキ科等在来種と在来果樹の苗木約54万本の植林を実施しました。今年度は、既植栽木のメンテナンスと、サバル国立公園で植林活動を実施しています。

2023年8月15日(火)、本社とKL支店の方々がサバル国立公園を訪問し、活動現場の視察と地域住民及び森林公社担当官との懇談を行いました。その後、2024年3月までに、約6千本の植林、既植栽木のメンテナンス、作業道補修、育苗管理作業を行いました。



「楸木下グループ 青少年研修プログラム」

当年度は、アペン国立公園「木下の森」地域にて、地域の小学生、大学生、村人などが参加する「青少年研修プログラム」を3回実施しました。2023年9月16日(土)クライト小学校、10月7日(土)バライ・リンギン中等学校、2024年2月3日(土)ルブル・ルムン小学校の児童・生徒と教員、大学生、地域住民など30名から40名が参加し、植林体験や環境学習プログラムを行いました。今後、植林体験の様子を描く絵画コンテストを小学校で行うほか、優秀作品を国内やクン市内で展示する予定です。



「タカサゴの森 熱帯雨林再生プログラム」

高砂熱学工業(株)のご協力により、マレーシア・サラワク大学で実施している「タカサゴの森」熱帯雨林再生プログラムは、2018年-2022年期の活動制限による未実施活動を行いました。

2023年は、育苗、4,400本の植林、既植栽木のメンテナンス作業、学生による植生調査を実施したほか、11月25日(土)にタカサゴグループ社員16名、大学生や地域の小学生など150名が参加する植樹行事を行いました。

2024年1月から5年間、第2期活動として森林多様化のための植林と地域社会が参加する植樹行事などを実施します。



タカサゴグループと大学の代表による記念植樹(左)、総勢150名が参加(右)

「JACリクルートメントPPPプロジェクト」

サラワク州スリアン地区のアペン国立公園とサバル国立公園で、「PPPプロジェクト」として、2022年ご寄付分の5,899本と、2023年ご寄付分の362本、計6,261本の植林を行いました。

2023年9月20日(水)、日本法人とマレーシア及び各国法人の方がアペン国立公園で植樹プログラムに参加したほか、サバル国立公園の視察も行いました。



「ダンロップホームプロダクツの森」

サラワク州ルンドゥ地区のサンパディ保護林で、(株)ダンロップホームプロダクツご協力による「ダンロップホームプロダクツの森」の活動として、2023年9月に地域の人々の協力を得て2,400本の植林を実施しました。

下期は、既植林地域でメンテナンス活動を行いました。



「パートナーシップフォレスト」

ダイドードリンコ(株)の自販機設置ご協力企業・団体との「パートナーシップフォレスト」活動として、サンパディ保護林で9月に405本の植林を行いました。

「ボルネオ島熱帯雨林再生活動」

小規模の植林と3年間のメンテナンスを行うプログラムとして、8月にブラックライン(株)のご協力で5本、11月に湯上昇様のご協力で10本の植林をアペン国立公園で行いました。

「村の女性による育苗プログラム」

植林活動地域住民の生活向上と参加型プログラムの推進として、村の女性による育苗プログラムをアペン国立公園地域とサバル国立公園地域の村落で実施しています。

「サバル保護林区でメンテナンス」

2022年度に(株)増田製粉所の協力を得て、サバル保護林区で植林(1,600本)を行った地域で、2024年2月にメンテナンス作業を行いました。

「バライ・リンギン保護林でメンテナンス活動」

バライ・リンギン保護林で、1995年から1996年に植林を行った地域のメンテナンス作業を行いました。

●サラワク州政府主催会議で活動発表

サラワク州森林局主催の「サラワク森林保全会議2023」(6月12日、13日)及びサラワク州天然資源環境局等主催「ボルネオ環境会議2023」(11月15日、16日)の発表者の一人として、州政府より招待を受け、在サラワク・コーディネーターの酒井和枝氏が各会議で、本協会が行う「地域住民参加型の植林プログラム」と、日本NGO連携無償資金協力による「地域村落における水環境と生活改善事業」の成果について発表を行いました。



パートナーシップフォレスト



ボルネオ島熱帯雨林再生活動



村の女性による育苗プログラム



サバル保護林でメンテナンス活動

●学生ボランティアによる「オランウータンの森再生プロジェクト」

2024年より、財団法人日本財団ボランティアセンターと協働し、本協会の熱帯雨林再生活動地(サラワク州アペン国立公園)において、日本の大学生ボランティアの参加による「オランウータンの森再生プロジェクト」を開始しました。

当プロジェクトは、年間4回、毎回約15名の学生ボランティアを派遣し、地域の人々と共に植林作業などを行います。10年間の事業として行われ、合計10万本の植林を目指します。

2月6日から17日、第一陣の派遣が行われ、その後、3月5日から16日、第二陣の派遣が行われました。毎回、2,500本の植林作業など、様々な地域支援活動が行われました

プロジェクトの開始に先立ち、2023年11月、公益財団法人日本財団会長と日本財団ボランティアセンター常務理事に同行し、本協会理事長と理事がマレーシアを訪問し、マレーシア政府関係者表敬訪問と記者発表を行いました。



アンワル首相と(写真・日本財団提供)



ニック・ナズミ環境大臣と(写真・日本財団提供)

●サラワク州における外務省関係協力事業

サラワク州先住民居住地域における水環境整備による生活改善事業

場 所 サラワク州サバル国立公園周辺地域

内 容 「日本NGO連携無償資金協力」事業として、脆弱な水環境により生活が困窮している先住民居住地域村落の人々の生活改善を目的とし、「コミュニティ導水システム」の整備による水環境の改善、水源地保全のための植林、水環境改善によって生じる生活余力を活かした生活向上プログラム、自立的な水環境維持管理と生活向上プログラム実施のための組織づくり、村や学校における環境及び衛生教育プログラムを実施しました。

期 間 2023年3月31日～2024年3月30日



小学校で環境・衛生プログラムを実施(左、10月)、村の女性を対象にワークショップ開催(右、11月)



水環境改善を活かした村の産物販売施設「道の駅」が完成(左、12月)、看板を設置(右、2月)



「道の駅」の自主的運営に向けた会議(左、3月)、「道の駅」の運営開始(右、3月)

●半島部クダ州他における活動

クダ州ムルボック湿地保護林において、2019年度より、劣化したマングローブ林の再生と環境教育及び生活向上プログラムを実施しています。今年度から、ペナン州のマングローブ林保全地域での活動も開始しました。

「木下の森」マングローブ林再生プロジェクト

クダ州ムルボック湿地保護林とペナン州スンガイ・アチェ保護林において、地域村落グループ、小学生・教員・PTA、マレーシア科学大学生らの参加を得て、年間を通じて植林活動を行いました。

また、2023年7月に活動地域の小学校で、PTAと教員を対象に「マングローブの実などを使ったジャムづくり(マングローブの実や葉は伝統的な健康食品として食されており、失われつつある民間知識とマングローブ林の保全を兼ねた講座)」と、児童を対象に「歯と健康に関する教育」プログラムを行いました。



「ユアサ商事の森」プロジェクト

クダ州ムルボック湿地保護林とペナン州スンガイ・アチェ保護林において、地域住民グループ、ペナン州大学予科校学生・教員らが参加し、約5,000本の植林を行いました。

活動地域の小学校で同社の「つなぐ」ロゴを中心に、マングローブ生態系の動植物などを描く絵画コンテストを、2年半ばから4月にかけて開催し、各学年で絵画づくりに取り組みました。5月、優秀作品を選び、児童に記念品を贈呈しました。

2023年7月に国内で開催された同社が後援する展示会「グランドフェア2023」において、サステナビリティ推進活動として、活動の様子と児童画が紹介されました。

また、2024年2月には、「ユアサ商事の森」プロジェクトを通じて、活動地域にある小学校へ通う子供達への修学支援プログラムとして、生活保護を受けている家庭の子供200人へ文房具を寄贈したほか、困窮家庭の子供20人へは制服、カバン、靴も寄贈しました。

